

動物からヒトにうつる病気（人獣共通感染症）トピックス

重傷熱性血小板減少症候群（SFTS）について

2013年、日本で初めての重傷熱性血小板減少症候群（SFTS）患者が確認されてから5年が過ぎました。西日本を中心に発生している、SFTS ウイルスによるマダニ媒介性全身性感染症は、年々患者発生地域が広がっています。SFTS は、2011年中国で初めて確認されました。その後、韓国と日本で患者が確認されています。SFTS が流行している地域では、マダニとマダニに吸血される動物との間で SFTS ウイルスが循環・保持されています。当初、動物は発症しないとされていました。しかし現在は SFTS 患者発生地域の家庭犬や猫に発症が確認され、マダニからペットそして人への感染を疑う症例が報告されています。

日本には、少なくとも47種類のマダニが生息していますが、SFTS ウイルスを媒介するマダニの種類やマダニの生息域、SFTS ウイルスの保有率、動物との相互関係等、実態は不明な点が多いのが事実です。ヒトは、SFTS ウイルスを保有するマダニに咬まれる事で感染し、発症してしまうと致死率はおよそ20%であるといわれています。発症年齢は50歳以上の高齢者が多いといわれています。

犬や猫も、SFTS ウイルスを保有するマダニ類に咬まれることで SFTS に感染します。現在、国内では犬で3頭、猫で40頭の症例が報告されています。マダニ類に咬まれる機会が無い完全屋内飼育では、感染することはないと考えられています。ペットが感染した場合、治療は対症療法になりますので、ダニの対策がとても大切なことになります。外出する犬や猫はダニの咬傷を避けるために予防薬の利用をおすすめします。**是非、かかりつけの動物病院の先生にご相談下さい。**

SFTS ウイルスを媒介するマダニ類について

西日本の9つの自治体において調査したところ、フタトゲチマダニ、ヒゲナガチマダニ、オオトゲチマダニ、キチマダニおよびタカサゴキララマダニから SFTS ウイルスが検出されました。SFTS 保有マダニは患者の地域と重複していますが、患者が確認されていない東日本でも確認されています。マダニの分布は野生動物の移動と深く関係しているといわれています。実際に野生動物では、ニホンシカやイノシシ等に抗体保有が認められ、特に、ニホンシカは抗体保有率が高いとの報告があります。ニホンシカの生育分布と SFTS を保有するマダニの分布には相関があるとの指摘がありますが、ニホンシカの分布は北上する傾向にあり、SFTS 抗体を保有するニホンシカは、長野県でも確認されています。

今後の対策について

現在、SFTS の有効な治療方法はありません。SFTS ウイルスの感染を予防することが重要です。ウイルスを保有するマダニ類に咬まれて感染することを防ぐことが最も有効な予防策です。外出する際には、犬や猫に対しては必ずダニの予防薬を活用しましょう。野外での感染を防ぐため、猫は室内飼育を心がけて下さい。

また、散歩のあとは、体にダニが付着していないか確認して取り除いてあげることも大切です。マダニ類からは SFTS 以外の様々な病気を媒介します。必ず予防と対策をして下さい。

参考・・・NIID 国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/sfts/3143-sfts.html>

NIID 国立感染症研究所 「マダニ対策 今できること」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/sfts/2287-ent/3964-madanitaisaku.html>

厚生労働省 「重傷熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html

群馬県獣医師会 公衆衛生管理委員会より
平成 30 年 8 月